

長崎県軟式野球連盟審判部のあゆみ

昭和20(1945)年8月6日に広島上空で投下された原子爆弾が、3日後の9日午前11時2分に長崎市浦上地区上空で炸裂。そして15日に戦争が終わった。

それから1年後の21年8月26日に全日本軟式野球連盟の設立総会を開催し同日に結成。直ちに日本体育協会に加盟を申請し、数日後に承認され、軟式野球の全国組織が統一された。

昭和35(1960)年2月には全国審判技術講習会が大阪であり46支部から1名ずつが参加。38年からは全国3地域に分けて各支部から3名あてが参加し2泊3日の日程で昼は実技、夜は宿舎で座学研修を行った。

この講習会受講者はそれぞれの支部での伝達講師として活躍するなどの成果を挙げたが、さらに昭和40(1965)年に審判技術指導員制度を設けて、その育成のための研修会を開催。

これは各支部で開催する審判技術講習会の際、講師となる人材の養成を目的としたもので各支部から1名あてを集めて、前期の講習会と同様2泊3日の審判技術研修会で、5回の出席者を指導員に認定した。

これにより昭和45(1970)年には各支部に1名の指導員が配置され、各支部ごとに定期的に講習会が持たれることになり、長崎県支部は松尾隆藤(当時38)がその要職についた。

しかし各支部1名の指導員では行き届かない点があるため、50年からは1支部3名の指導員配置を目標にそれまでの3地域講習会を取りやめ、東西2ブロックに。54年からは統一して全国講習会とした。

当時は長崎県軟式野球連盟審判部として活動していたが、昭和57(1982)年に審判技術の向上と審判員相互の親睦を図る目的で『長崎県公認野球審判協会』が設立され、当初に公認された審判員数は16支部合計で335人。会長に松沢繁(長崎)、理事長が平井清光(同)、審判長に松尾隆藤(県北)、副審判長が54年3月に全軟連技術指導員となった陶山裕介(島原)に、上川善高(長崎)と平田俊男(福江)。事務局長が佐藤登(長崎)。

全軟連審判技術指導員になるには中央での講習会を5回受講しなければならなかったが、ブロックでも研修会がもたれるようになったため、これを2回参加すれば全国のは3回で技術指導員と認定するようになったのは58年から。

技術指導員の60歳定年制は昭和63(1988)年に制定され、長崎県連初代指導員・松尾高藤の定年に伴い、丸山隆幸(長崎)が研修を受けた。

松尾の定年引退により、長崎県連では陶山裕介(54年修了)、内山克則(57年修了)、丸山隆幸(平成7年修了)の3人の指導員が長いこと県内の審判技術指導を行っていたが、定年制度により年長順に丸山、陶山、内山と相次いで引退し、現在は、平成22年3月に研修終了の山下英一郎(長崎)、24年終了の藤山隆一郎(諫早)、28年終了の田中康隆(諫早)の3人が長崎県の全軟連審判技術指導員で活動中。

指導員の定年は、平成20(2008)年からは63歳に引き上げられた。

昭和57年に設立した『長崎県公認野球審判協会』も、初代理事長だった平井清光が昭和62年に県連盟二代目理事長就任に伴い副会長となり、松尾高藤が理事長就任。その松尾の逝去(H.13)で小川勝憲(諫早)が三代目理事長など紆余曲折はあったが松沢は名称変更まで会長職を務めた。

協会の名称が平成17年2月から『長崎県軟式野球連盟審判部』と改称され、役員組織も審判部長、審判長、事務局長の三役となった。

平成16年度。最後の審判協会役員は…
会長=松沢繁 副会長=平井清光 理事長=小川勝憲
副理事長=森清(長崎) 村川勇(佐世保) 審判長=丸山隆幸
副審判長=前田重穂(北松) 事務局長=内山克則(佐世保)
理事=陶山裕介(島原) 松永光生(大村) 古川豊樹(平戸) 緒方鶴雄(松浦) 森泰宏(福江) 藤尾豊(東彼杵) 佐藤隆(西彼杵) 松本繁喜(南高来) 中山勝(北高来) 北村英彦(北松) 石田健二(上五島) 川田俊哉(吉岐) 吉野徹(対馬)

県軟式野球連盟審判部の登録審判員数は年々減少し、平成15年は450人登録であったが18年後の令和3年は140人減の312人の登録数である。